

海洋学習 ローボート操船実習 マニュアル



 ユーハイム似島歓迎交流センター

1. 海洋学習のねらい

- (1) ローボートの操船実習を通し、「海」に親しむとともに、「海」について理解する。
- (2) 各自の役割を確実に果たし、みんなで力を合わせることで、素晴らしい結果が得られることを体感する。

2. 海洋学習実施場所及び安全対策

(1) 海洋学習実施場所



(2) 健康観察及び人員確認

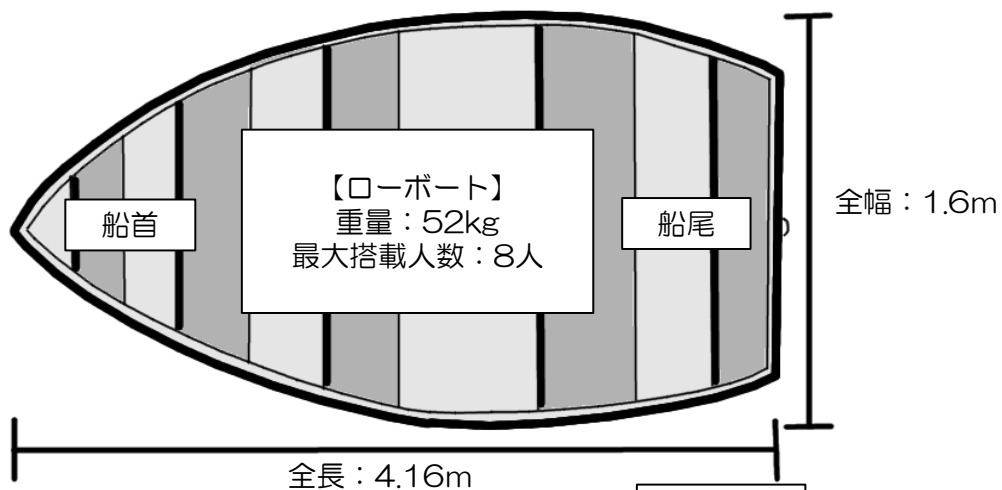
- ① 実習前（直前）に各団体で健康観察を行い、体調が悪い場合は無理をして参加させない。
- ② 団体の指導者は、参加者・見学者の人数及び見学者の対応等について、職員に連絡する。

(3) 安全対策

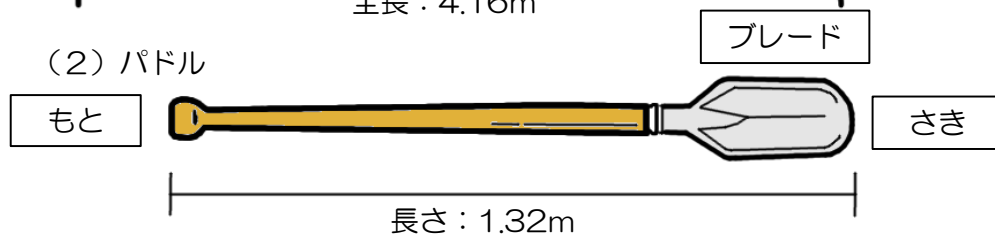
- ① 実習の実施及び中止の決定は気象条件等により、団体指導者と協議の上、当所の判断で行う。
 - ② 団体指導者は、事前に安全指導の徹底を図る。安全で楽しく活動できるように指導する。
 - ③ 参加者は安全確保のため、当所職員の説明や注意事項を守り、互いに協力するように努める。
 - ④ 乗船時には必ずライフジャケットを着用する。
 - ⑤ 海岸で待機中、水際より2～3m離れ、海に入らないようにする。
 - ⑥ 非常の場合は大声を出すなどして、近くの人に助けを求めるようにする。
 - ⑦ 各グループごとの交代時や活動終了時には、人員確認を必ず行う。
 - ⑧ 眼鏡等は、脱落防止の措置をして活動する。
 - ⑨ 大きめの波がきた場合、波が収まるまで乗船・下船はしない。
 - ⑩ 海岸のカキ殻、針金、ガラス片に注意し、裸足になったり、カキ殻や石を投げたりしない。
- ※ 別紙「海洋学習（ローボート・海力ヌー）安全対策要綱」をあわせてご確認ください。

3. 使用用具

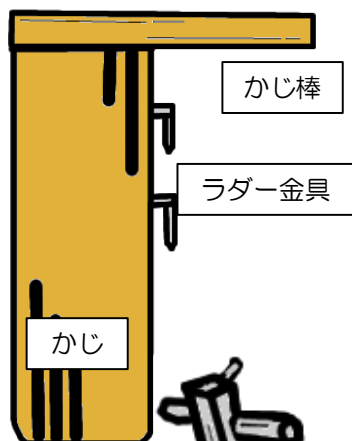
(1) ローボート〈エンジェルフィッシュ〉



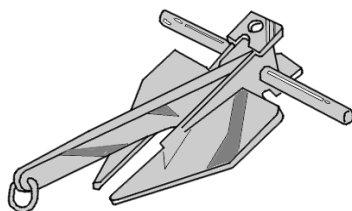
(2) パドル



(3) かじ〈ラダー〉



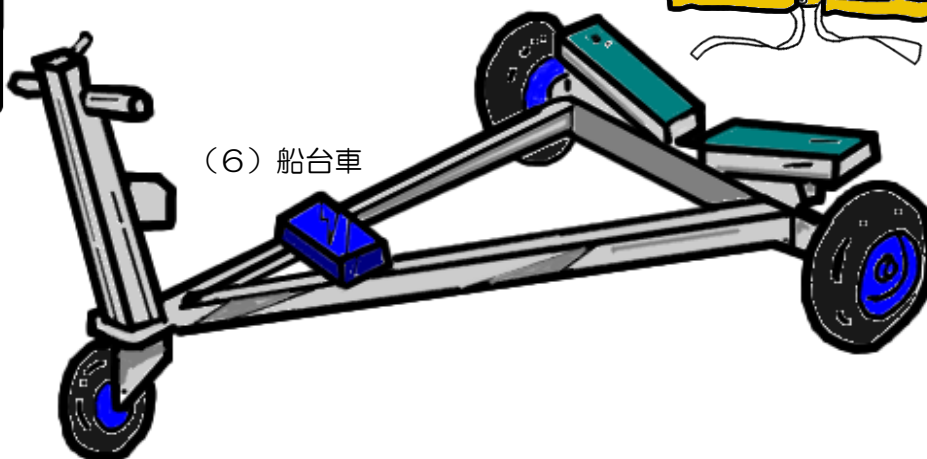
(4) アンカー〈錨〉



(5) ライフジャケット
〈救命胴衣〉



(6) 船台車



4. 用具の使用上の注意

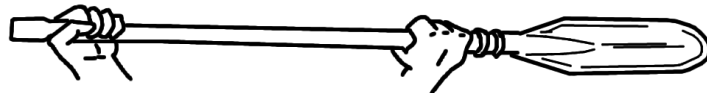
(1) ローボート

- FRP（ガラス繊維強化プラスチック）でできているので、水や鉄に比べて軽く腐食しにくい利点がある反面、衝撃に弱い欠点がある。飛び乗ったり、ぶつけたり、落としたりしないように注意する。
- 陸上では決して乗らない。
- 使用後は真水で洗浄し、バンガローの下へ収納する。

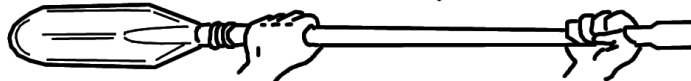
(2) パドル

- パドルの「もと」の方は逆手、「さき」の方は順手で持つ。
- 持つ位置は、「さき」の方は「ブレード」の付け根付近に固定し、「もと」の方は肩幅位になるように調節する。

右舷乗船者



左舷乗船者

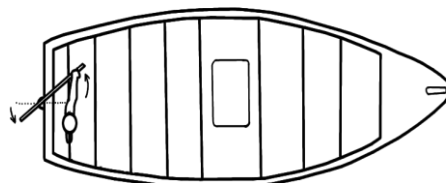
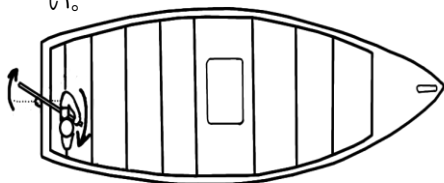


- 漕ぐときには、「さき」の方の手はボートの舷より外に出して漕ぎ、パドルをボートの舷にぶつけないようにする。
- 使用後は真水で洗浄し、体育棟シャワー室横の物干し場横に立て掛けて乾かす。



(3) かじ（舵）

- かじ（舵）の取り付けは、ボート・「ラダー（舵板）」双方が揺れるため、慣れるまでは大変難しい。
- 一方の手は下側の「ラダー金具」、もう一方の手は「チラー（舵棒）」をしっかりと持ち、下側の「ラダー金具」から取り付ける。
- かじ（舵）は「チラー（舵棒）」を持って操作する。右へ曲がるときは「チラー（舵棒）」を左へ、左へ曲がるときは「チラー（舵棒）」を右へ動かす。「チラー（舵棒）」を握っている手を、「自分の曲がりたい方向の反対側へ動かす。」と覚えると良い。



- 「チラー（舵棒）」を持っている手を、自分の身体に近づけることを「かじ（舵）を引く」と言い、自分の身体から遠ざけることを「かじ（舵）を押す」と言う。



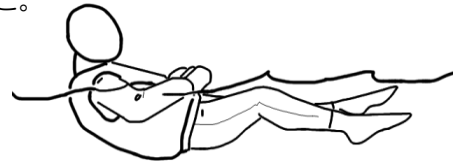
- 使用後は真水で洗浄し、体育棟シャワー室横の物干し場に立て掛けて乾かす。

(4) アンカー（錨）

- 重い（3. 5kg）ので、ボートに落とさないように十分注意が必要。
- 「アンカー（錨）」の上げ下ろしの際、「アンカー（錨）」とロープがからまないようにすること。
- 「アンカー（錨）」を落とすときに、ボートから転落しないように注意すること。また、「アンカー（錨）」を落とすときに、遠くに投げる必要はない。船べりから静かに落とせばよい。
- 使用後は「アンカーロープ」を付けたまま真水で洗浄し、ボートの中へ入れておく。

(5) ライフジャケット（救命胴衣）

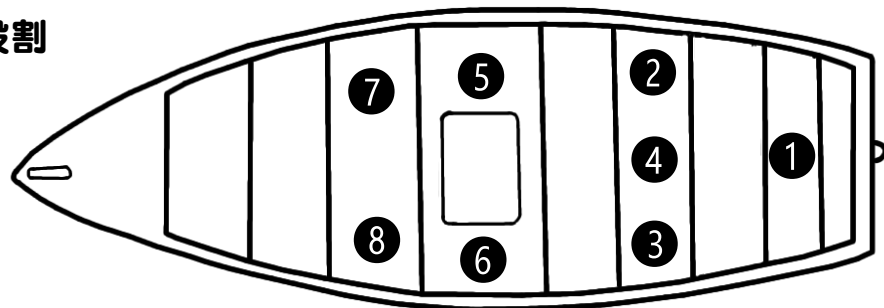
- 大・小、2種類あるので、体型に合ったものを使用する。
- ボートに乗船するときは、全員必ず着用すること。
- 腕を通し、チャックを閉め、腰ひもを結ぶ。
- ボートから落水したときは、上向きになり、脇をしめ、じっとしておく。泳いだり、暴れたりすると、浮力が低下する。
- 救助を呼ぶときは、大声を出すか、「ライフジャケット（救命胴衣）」に着いている笛を吹いて救助を求める。
- 使用後は真水で洗浄し、体育棟シャワー室横の物干し場のハンガーに掛けて乾かす。



(6) 船台車

- 船主側と船尾側に分かれてボートを運搬する。
- 船首側はロープではなく、船台車の先端部分のハンドルを持って運搬する。
- 「船台車」は三輪で、前側の車輪しか方向が変わらない。曲がり角や自動車・ガードレールの横などでは、十分に注意して方向を変えること。（特に曲がり角では大きく曲がること）
- 運搬中は、ボートにぶら下がったり、乗ったりしないこと。また、走ったり、前のボートを追い越したりしない。
- 自動車やバイクが近づいたときには、速やかに山側に移動し、道を譲ること。
- ボートを降ろした「船台車」を、ベンチ代わりにして座ったりしないこと。
- 使用後は真水で洗浄し、ボートをのせたままバンガローの下に収納する。（特に車輪の軸受けは、しっかりと洗浄すること）

5. 乗船位置と役割



- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ①・・・舵の操作 | ⑤・・・漕ぎ手（右真ん中） |
| ②・・・漕ぎ手（右後）・アンカーの操作 | ⑥・・・漕ぎ手（左真ん中） |
| ③・・・漕ぎ手（左後） | ⑦・・・漕ぎ手（右前） |
| ④・・・全体の指揮・声かけ | ⑧・・・漕ぎ手（左前）・乗船、下船時の船おさえ |

（7名で乗船するときは、①は④の役も兼ねる）

6. 乗船方法

6-1. 乗船までの流れ（フローチャート）

実施前日まで

(1) 模擬操船

- ①安全指導
- ②使用物品等説明
- ③模擬操船

(2) 実施上の注意

- ①準備（物品、並べ方等）
- ②運搬上の注意
- ③海岸での注意
- ④操船コース説明

実施当日

(1) 交流センターでの準備（8:50 迄）

- ローポート・かじ・パドル・ライフジャケットを準備

(2) 移動（9:00 出発）

- ①点呼、説明、健康観察
- ②移動（運搬）【交流センター艇庫→海岸】

(3) 海岸での準備

- ローポート配置等準備

(4) 乗船

- ①点呼、乗船
- ②アンカーロープ準備
- ③かじの取り付け
- ④アンカーロープ引き上げ

(5) 操船（2～3回）

- ①方向転換（右回転）
- ②前進（右回り）
- ③着岸

(6) 下船

- ①下船、点呼、報告
- ②諸注意

(7) 移動（10:40 頃出発）

- ①点呼
- ②移動（運搬）【海岸→交流センター艇庫】


(8) 後片付け（11:00～）

- ①艇庫の洗い場で洗い、元の場所に戻す。
- ②パドル・かじ・ライフジャケットを洗い、干場に干す。

＜操船＞


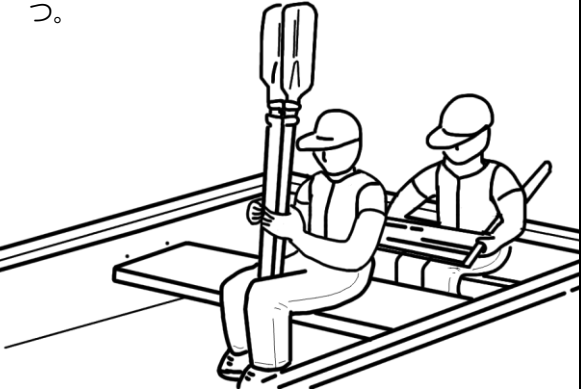
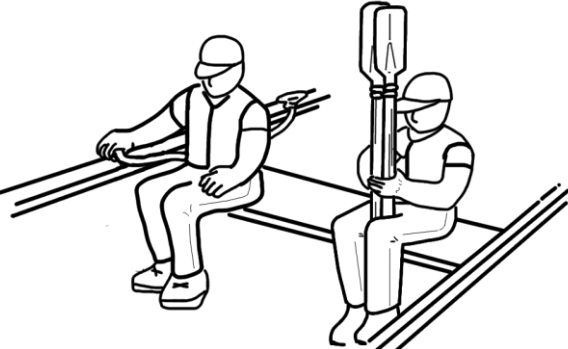
6-2. 乗船方法（図解）

（１）乗船報告

	内 容	号令・かけ声等	
1. 整列	<p>・ライフジャケットを着用し、自分達が乗船する船の前に整列する。</p> 	①番	「整列」
2. 点呼	<p>・全員がそろっているかどうか、番号をかけて確認する。</p>	①番 ①～⑧番	「番号！」 「イチ、ニ、サン ～シチ、ハチ！」
3. 乗船報告	<p>・乗船することを担当の指導者に報告する。</p>	①番	「〇班〇名、乗船 します！」
4. 乗船許可	<p>・報告を受けた指導者は、人数・服装（ライフジャケット）、海、ボートの状況などをチェックして、乗船許可を与える。</p>	指導者 ①～⑧番	「〇班〇名、乗船 を許可します！」 「オー！」


（２）乗船


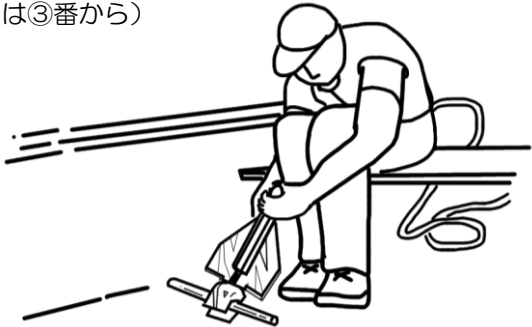
	内 容	号令・かけ声等	
1. ボート固定	<p>・乗船時に少しでもボートの揺れをおさえ、また、不意の波に備えるために、⑧番が船首部分を押さえて固定する。（またいで固定してもよい）</p>	⑧番 ①～⑦番	「ボート押さえよ し！」 「オー！」
<p>★乗船する際の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①番から順番に一人ずつ乗船すること。（前の人が座ってから乗船を始める） ・足やくつが濡れるのを嫌がって飛び乗ることは、スリップ事故の原因となり大変危険なので、足やくつが濡れてもゆっくりと安全に乗船すること。 ・ボートは海に浮いているので、常に揺れている。また、いつ大きな波が来るかわからないので、船内を移動する際は、必ず両手をついて低い姿勢で移動すること。 ・ボートの上で立ち上がったり座席の上に立ったりすると、ボートの重心が高くなり、ボートのバランスが崩れやすく大変危険なので、常に低い姿勢で重心を低く保つこと。 ・両側の①・②・③・⑤・⑥・⑦・⑧番は、できるだけボートの外側に座ること。 （ボートの重心がより安定し、パドルも操作しやすい） ・乗船後の各操作は、座席に座ってから行うこと。 			

	内 容	号令・かけ声等	
2. ①番乗船	<ul style="list-style-type: none"> 乗船し、所定の位置に座ったらかじを持ち、ひざの上に用意する。（まだ水深が浅いので、かじが海底に当たり取り付けができない） ①番は②～⑧番が乗船する際、ボートのバランスを取るために座席の中央に座る。 	①番 ①番以外	「①番、乗船します！」 「オー！」
3. ②番乗船	<ul style="list-style-type: none"> 乗船し所定の位置に座ったら、バランスを取るため座席の中央に座り、自分と③番の使用するパドル2本を持ち、パドルのさきを上にして立てて持つ。 	②番 ②番以外	「②番、乗船します！」 「オー！」
4. ③番乗船	<ul style="list-style-type: none"> ③番が乗船してきたら、座ったまま所定の位置に移動し、パドル2本を③番に渡す。 パドルを渡したら、アンカーロープを手にかけてアンカー操作の準備をしておく。 	③番 ③番以外	「③番、乗船します！」 「オー！」

	内 容	号令・かけ声等	
5. ④番乗船	・乗船し所定の位置に座ったら、②番のパドルを③番から受け取る。（④番がいないときは、②番のパドルは③番がもったまま）	④番 ④番以外	「④番乗船します！」 「オー！」
6. ⑤番乗船	・乗船し所定の位置に来たら、自分と⑥番のパドルを2本持ち、パドルのさきを上にして、座席の中央に座る。 ・⑥番が乗船してきたら、座ったまま所定の位置に移動し、⑥番のパドルを渡す。	⑤番 ⑤番以外	「⑤番乗船します！」 「オー！」
7. ⑥番乗船	・乗船し所定の位置に座ったら、自分のパドルを⑤番から受け取る。	⑥番 ⑥番以外	「⑥番乗船します！」 「オー！」
8. ⑦番乗船	・乗船し所定の位置に来たら、自分と⑧番のパドルを2本持ち、パドルのさきを上にして、座席の中央に座る。	⑦番 ⑦番以外	「⑦番乗船します！」 「オー！」
9. ⑧番乗船	・船台車に巻き付けてある船首ロープをほどき、束ねて片手で持つ。 ・全員に声をかけてから、ボートをゆっくり力強く押し出す。（勢いよく押すと、自分が乗船できなくなる） ・ボートに乗船することができなかったときは、手に持っている船首ロープを引っ張って、ボートをたぐり寄せて、全員への声かけからやり直す。 ・乗船し所定の位置に座ったら、自分のパドルを⑦番から受け取る。	⑧番 ⑧番以外	「行くぞー！」 「オー！」

（３） かじの取り付け

	内 容	号令・かけ声等	
1. 離岸	<ul style="list-style-type: none"> ・⑧番が乗船し所定の位置に座ったら、②番はアンカーロープをゆっくりとたぐり寄せる。（このときボートはゆっくり浜から離れていく。） ・アンカーロープが真下にまっすぐ伸びたところでたぐり寄せるのをやめ、ボートが動かないようにアンカーロープをしっかり握っておく。（このときアンカーは海底にある） ・アンカーロープを固定したことを、全員に報告する。  <ul style="list-style-type: none"> ・アンカーが海底から離れていると、かじを取り付けている間に、風や波、潮流でボートが流されてしまうので、かじが取り付けられるまでは、アンカーは海底に固定しておくこと。（アンカーを海底から上げてしまったときは、アンカーロープを握っている手を離し、アンカーを海底に落としてから、再びアンカーロープを握り直す） 	②番 ②番以外	「アンカーロープよし！」 「オー！」

	内 容	号令・かけ声等	
2. かじ付け	<ul style="list-style-type: none"> ②番の報告を聞いてから、①番はかじを取り付ける。ボートもかじも揺れるので、なれるまでは大変難しく時間もかかる。①番は焦らず落ち着いて作業し、①番以外の方はじっとしてボートが揺れないようにする。 かじの取り付けが完了したら全員に報告する。 	①番 ①番以外	「かじ、よし！」 「オー！」
3. アンカーの収納	<ul style="list-style-type: none"> ①番の報告を聞いてから、②番はアンカーロープをたぐり寄せ、アンカーをボートの中に収納する。 引き上げたアンカーは足もと、アンカーロープは自分の後ろに置く。（アンカーロープが足にからまないようにするため） アンカーを上げたり、置いたりするときに、アンカーをボートに強くぶつけないように注意する。 アンカーをボートの中に収納したら、全員に報告をする。 ②番はアンカーの収納を報告したら、自分のパドルを④番から受け取る。（④番がいないときは③番から） 	②番 ②番以外	「アンカーよし！」 「オー！」

(4) 方向転換 ※右に回る方法のみを覚えておいてください。

	内 容	号令・かけ声等	
1. 準備	<ul style="list-style-type: none"> ④番は、ボートを右に回転させるため、全員に報告しパドルを用意させる。 ボートを右に回すときは、右側に座っている②・⑤・⑦番が後にパドルを構え、左に座っている③・⑥・⑧番が前にパドルを構える。①番はかじ棒を左に動かす。 	④ (①) 番 ④ (①) 番以外	「右へ回ります。パドル用意！」 「オー！」

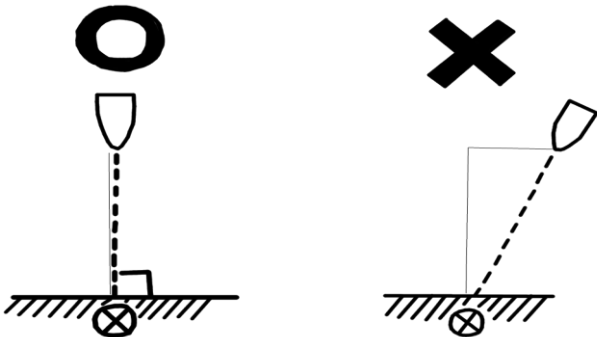
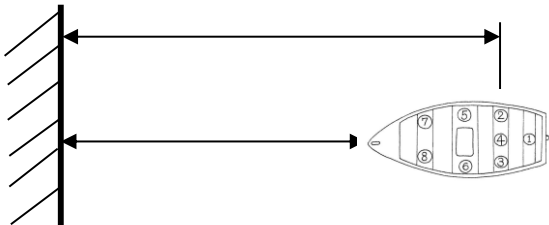
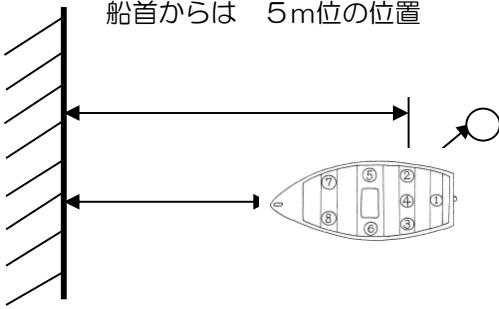
	内 容	号令・かけ声等	
	<p>・ ボートを右に回すためには、右側に座っている②・⑤・⑦番が後ろにパドルを構え、左側に座っている③・⑥・⑧番が前にパドルを構える。①番はかじ棒を左に動かす。</p>		
2. 方向転換開始	<p>・ ④（①）番はパドルとかじの用意ができたことを確認し、かけ声をかける。</p> <p>・ ④（①）番の「キャッチ！」のかけ声と同時に、②・③・⑤～⑧番は、パドルを水面に突っ込み、「オー！」のかけ声と共に、前に構えたパドルは後に、後に構えたパドルは前にカー杯こぐ。</p> <p>・ こぎ終わったらパドルを水面から上げ、すぐ元の構えの位置に戻す。</p> <p>・ 6本のパドルが元の構えの位置に戻った瞬間に、④（①）番は次の「キャッチ！」のかけ声をかける。</p> <p>・ 数回繰り返すと、ボートはその場で向きを変えていく。</p>	<p>④（①）番</p> <p>④（①）番以外</p>	<p>「キャッチ！」</p> <p>「オー！」</p>



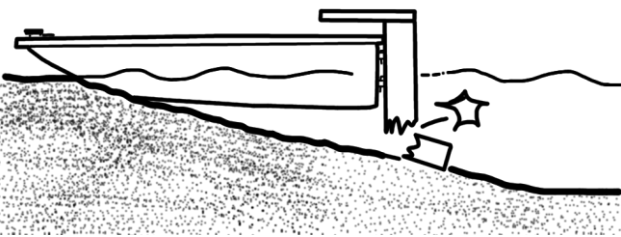
	内 容	号令・かけ声等	
3. 完了	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ反転したところで、④（①）番は6本のパドルを止めさせる。（完全に反転して止めると、情性で回りすぎてしまう） ・②・③・⑤～⑧番はパドルを水面から上げ、立てて（又は水平にして）おく。 ・①番はかじを中央に戻す。 	④（①）番	「パドルやめ！」
		④（①）番以外	「オー！」

（５） 前進

	内 容	号令・かけ声等	
1. 直進	<ul style="list-style-type: none"> ・沖のブイに向かって前進する。 ・④番は目標物（ブイ）を全員に指示し、前進の用意をさせる。 ・②・③・⑤～⑧番はパドルを前に構える。 ・①番は目標物（ブイ）を確認し、ボートが目標に向かうようにかじを調節する。 ・④（①）番はパドルとかじの用意ができたことを確認し、かけ声をかける。 ・②・③・⑤～⑧番は④（①）番のかけ声に合わせて、カー杯こぐ。 ・②～⑧番はかけ声のリズムに合わせて、前進を続ける。 ・①番は目標物（ブイ）から目を離さず、ボートが常に目標物の方向に向くようにかじの微調整を行う。 ・また、他のボートの状況をよく観察し、接触・衝突のないように早めにかじを切ること。 ・風があるときは、風に流されることも考えて、目標物（ブイ）よりやや風の吹いてくる方向に進むとよい。 ・ブイを回ったり、他の船をよけるために曲がったりするときは、かじだけを使って曲がること。 ・パドルでブレーキをかけたり、逆こぎをしない。（ブイを回るときも、②～⑧番は前進と同じように、前から後にこぐ。） ・かじは自転車のハンドルと同様で、泊まっているとボートの方向を変えることができない。ボートの速度が速いほど、かじはよくきく。 ・他のボートとの衝突を避けるため、ブイは常に右回りとする。 	④（①）番	「沖のブイに向かって、前進します！」 「パドル用意！」
		④（①）番以外	「オー！」
		④（①）番	「キャッチ！」
		②・③・⑤～⑧番	「オー！」
		④（①）番 ①～③・⑤～⑧番	「キャッチ！」 「オー！」
★どうしても他のボートと接触・衝突が避けられないときの注意事項 ・手やパドルを出さない。（ボートの間に手を挟んだり、パドルで人を突いたりするから） ・接触・衝突した後、お互いのボートが完全に止まってから、前側にあるボートからこいで離れる。			

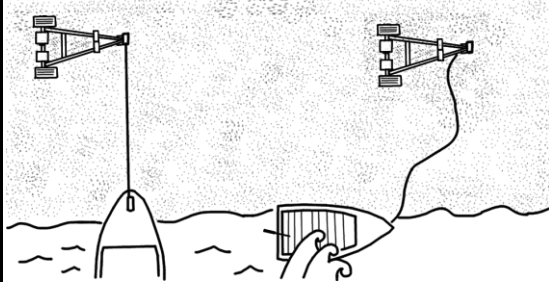
(6) 着岸

	内 容	号令・かけ声等
1. 進路調節	<ul style="list-style-type: none">①番は自分達のボートの着岸地点を確認し、その地点へ浜に対して直角に着岸できるように、沖から進路を調節していく。浜に対して斜めに進入すると、アンカーロープが他のボートのものと交差したり、着岸した後にボートが横波を受けて浸水したりする。 	
2. アンカーリング	<ul style="list-style-type: none">②番は船首から岸まで約10m（②番の位置から約15m）の位置に来たら、パドルを足下に置きアンカーを持って落とす準備をする。 <p>②番からは15m位の位置 船首からは10m位の位置</p>  <ul style="list-style-type: none">②番はアンカーの準備ができたなら、再び船首と岸との距離を確認する。②番は船首と岸との距離が約5m（②番の位置から10m）の位置に来たときに、アンカーを海に落とす。（アンカーは投げるのではなく、そっと手を離すだけでよい） <p>②番からは10m位の位置 船首からは 5m位の位置</p> 	

	内 容	号 令 ・ かけ 声 等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンカーを落とすのが早すぎると、ボートは岸に着かない。 ・ このときは、岸にいる指導者に⑧番は船首ロープを投げて引っ張ってもらうか、②番がアンカーを引き上げて、再度アンカーを落とし直す。  <ul style="list-style-type: none"> ・ アンカーを落とすのが遅すぎると、アンカーロープがたるみ、着岸したボートがしだいに横を向き横波を受けて浸水しやすくなる。 ・ このときは、全員が下船するまでボートが横を向かないように、指導員や手のあいている者がボートを押さえる。全員が下船後に指導員はアンカーを打ち直す。 	
3. 着岸	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①番は船首が岸から1 m (①番の位置から6 m) の位置に来たときに、かじをはずす。 ・ 岸に着岸するまでかじを付けたまましていると、かじの下側が海底に当たり、ラダー金具を破損する可能性がある。  <ul style="list-style-type: none"> ・ ②・③・⑤～⑧番は、着岸し④ (①) 番が指示するまで、力強くこぐ。 ・ 着岸したら④ (①) 番は、パドルの動きを止める指示を出す。 ・ ②・③・⑤～⑦番は、④ (①) 番の指示でこぐことをやめて、パドルを水から上げる。 ・ ⑧番は④ (①) 番の号令でこぐことをやめて、パドルを水から上げると同時に、パドルを足下に置き、船首ロープを持って、すぐに下船する。 ・ ⑦番はバランスを取るため中央に座る。 	<div> ④ (①) 番 ④ (①) 番以外 </div> <div> 「パドルやめ！」 「オー！」 </div>

	内 容	号令・かけ声等	
	<ul style="list-style-type: none"> ・②・③・⑤～⑦番は、⑧番が下船の準備をしている間に、パドルを足下に置く。 ・①番はかじを横にして座席の後部に置き、中央に座る。 ・着岸したからといって、勝手に立ち上がった、下船したりしないこと。 		

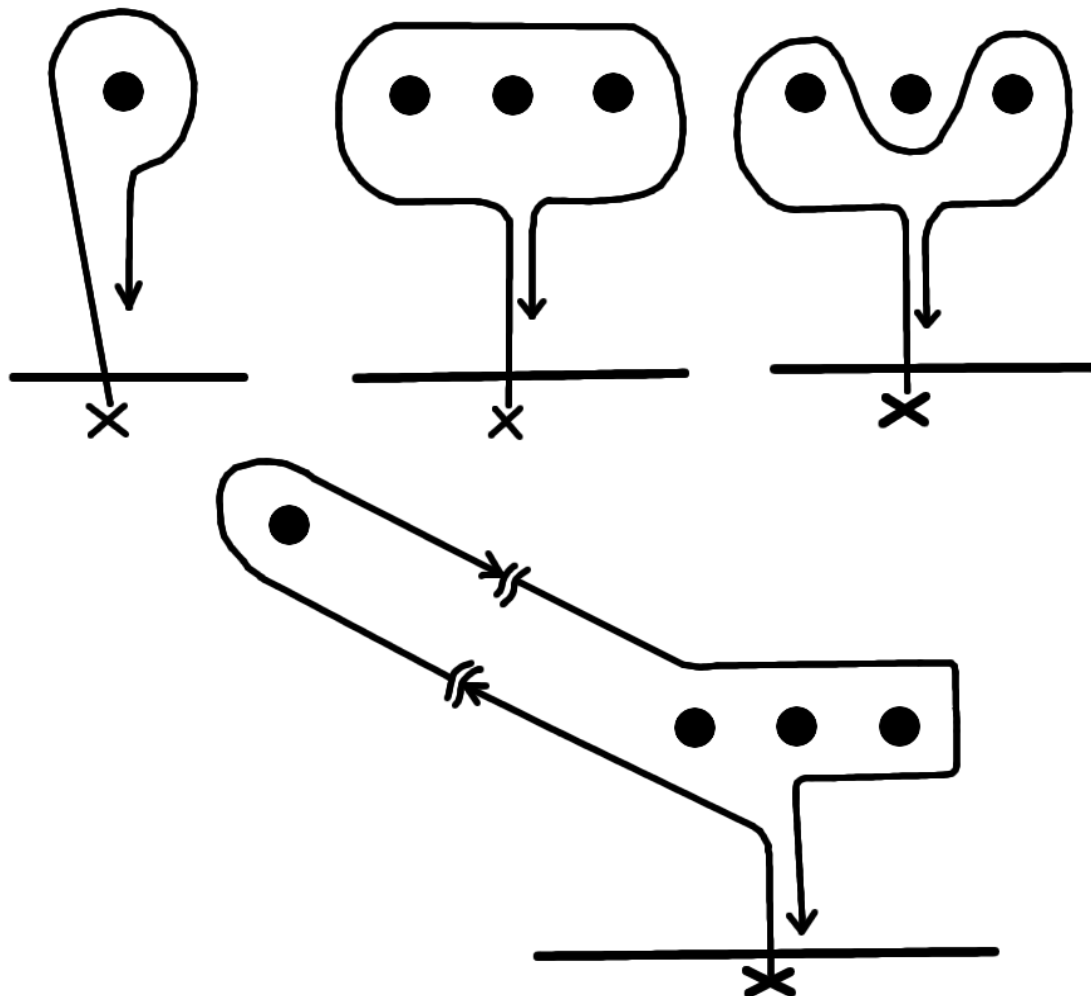
(7) 下船

	内 容	号令・かけ声等	
1. ボート固定	<ul style="list-style-type: none"> ・⑧番は、船首ロープを船台車に固定する。(ロープをまたがせる方がよい)  <ul style="list-style-type: none"> ・⑧番は、下船時のボートの揺れを少しでも抑え、また、不意の波に備えるため、船首部分を押さえて固定する。(またいで固定してもよい) 	⑧番	「ボート押さえよし！」
2. ⑦番下船	<ul style="list-style-type: none"> ・乗船時と同じように、両手をついて低い姿勢で下船する。 ・下船したらすぐに整列できるように並んでおく。 	⑦番 ⑦番以外	「⑦番下船します！」 「オー！」
3. ⑥番下船	<ul style="list-style-type: none"> ・⑦番が完全に下船してから下船を始める。(⑥番はバランスを取るため中央に座る) ・下船したらすぐに整列できるように並んでおく。 	⑥番 ⑥番以外	「⑥番下船します！」 「オー！」
4. ⑤番下船	<ul style="list-style-type: none"> ・⑥番が完全に下船してから下船を始める。 ・下船したらすぐに整列できるように並んでおく。 	⑤番 ⑤番以外	「⑤番下船します！」 「オー！」
5. ④番下船	<ul style="list-style-type: none"> ・⑤番が完全に下船してから下船を始める。 ・下船したらすぐに整列できるように並んでおく。 	④番 ④番以外	「④番下船します！」 「オー！」
6. ③番下船	<ul style="list-style-type: none"> ・④番が完全に下船してから下船を始める。(③番はバランスを取るため中央に座る) ・下船したらすぐに整列できるように並んでおく。 	③番 ③番以外	「③番下船します！」 「オー！」
7. ②番下船	<ul style="list-style-type: none"> ・③番が完全に下船してから下船を始める。 ・下船したらすぐに整列できるように並んでおく。 	②番 ②番以外	「②番下船します！」 「オー！」
8. ①番下船	<ul style="list-style-type: none"> ・②番が完全に下船してから下船を始める。 	①番 ①番以外	「①番下船します！」 「オー！」

(8) 下船報告

	内 容	号令・かけ声等
1. 整列	・①番は下船したらすぐに、自分達が乗船した船の前に全員を並ばせる。	①番 「整列！」
2. 点呼	・全員がそろっているかどうか、番号をかけて確認する。	①番 ①～⑧番 「番号！」 「イチ、二、サン ・・シチ、ハチ！」
3. 下船報告	・下船したことを担当の指導員に報告する。	①番 「〇班〇名、下船しました！」
4. 評価	・報告を受けた指導員は乗船、操船、下船の方法などに関して評価をして、次の乗船に向けての課題を提示する。	指導者 ①～⑧番 「〇班は・・・でした！次回は・・・に気を付けて頑張ろう！ご苦労様でした！」 「ありがとうございました！」

7. 操船パターン



8. 実際の運営及び注意事項

(1) 入所するまでの準備

- ・ 参加者を7人または、8人のグループに編成しておく。（6人以下、9人以上は不可）
- ・ 乗船位置と役割の関係を理解させ、各グループごとに乗船位置（番号）を決めておく。

(2) 模擬操船時の準備と片付け

- ・ プレイホールのステージに模擬船を用意する。
- ・ ステージの模擬船も含め、少なくとも2グループに1つの割合で、折り畳みベンチを使った模擬船をフロアに用意する。
- ・ 各模擬船にパドル6本・かじ1個・ライフジャケット8着・アンカー1個・台車に見立てたクリート1個を用意する（ライフジャケット必要に応じて用意）。
- ・ ステージの模擬船には、アンカーも用意する。
- ・ 集合する際は、プレイホールに入り向かって右側のステージを正面にして、乗船するグループごとに整列する。（乗船順に整列するのが望ましい）
- ・ 模擬操船終了後は、折り畳みベンチ・パドル・ライフジャケット・かじ・アンカー・台車に見立てたクリートを元の位置に片付ける。

(3) 実習当日の準備

- ・ 午前8時50分までに、つどいの広場に班ごとに集合する
- ・ トイレを済ませ、濡れてもよい靴・服装で集合する。
（靴下もはいた方がよい）
- ・ 必要に応じて、帽子・水筒・タオル・班旗などを用意する。
- ・ 通行する車両等に気を付けて、艇庫まで移動する
- ・ 艇庫内のローポートにライフジャケット（7～8枚）を入れる。

(4) 実習海岸までの移動

- ・ 船台車の移動方法に注意して、分担してボートを運ぶ。
- ・ 海岸での準備の都合上、先頭は監視・救助艇、その後からローポートの順番で運搬する。
- ・ 各ボートの先頭には指導者がつき、移動中の安全指導を行う。
- ・ 移動は公道を通るので、安全には十分注意を払い、自動車やバイク・自転車が来たときには、**山側の広い場所**に移動する。
- ・ ボートを運搬するときは、走ったり、前のボートを追い越さない。
- ・ 運搬中のボートや船台車に乗ったりしない。

(5) 海岸での準備

- ・ ボートを道路から海岸へ降ろす作業は、船台車のハンドル操作をセンター職員・指導員が行う。
- ・ ライフジャケットを船内から出し、各ボートの前に出しておく。
- ・ アンカーロープがアンカーと船尾に、それぞれ固定されていることを確認する。
- ・ 船首ロープを船台車から外し、ローポートを海に浮かべる。
- ・ アンカーをできるだけ沖に落とす。
- ・ 船台車を海岸線と平行に配置し、船首ロープを船台車に固定する。
- ・ 監視・救助艇の準備・ブイの設置は、センター職員で行う。

(6) 海岸での注意事項

- ・ 浜には、カキ殻、針金、ガラスの破片などがあるので、裸足になったり、砂遊びをしない。
- ・ カキ殻や石を投げて遊ばない。（カキ殻でけがをする可能性がある）
- ・ トイレに行く場合は、必ず担当の指導者に連絡してから行く。
- ・ 待機しているグループは、整列して座り、決して海には入らない。
- ・ 沖合をフェリーや高速船が航行し、大きな波が来たときには、着岸しているボートは押し出し、海の上に完全に浮かべておく。（後部からの海水の浸水を防ぐため）

(7) 海岸での片付け

- ・ ロボートを船台車に乗せ、浜に上げる。
- ・ 船尾の船底にある水抜き栓を外し、船内の海水を抜く。
- ・ パドル、かじ、ライフジャケットをロボットに入れる。
- ・ ロボートを海岸から道路に上げる（船台車のハンドルは引率者・職員が操作する）。
- ・ 監視艇・救助艇はかなり重いので、みんなで協力して海岸から道路に上げる。
- ・ 忘れ物がないか確認する。

(8) 海岸から交流センターへの移動

- ・ 海岸への移動と同様に、安全には十分注意すること。
- ・ 艇庫に着いたら、監視艇・救助艇は艇庫前の水道前に並べる（４台ずつ）。
- ・ 監視艇・救助艇は艇庫まで運搬後、監視員・救助員に引き継ぐ。

(9) 後片付け

- ・ ライフジャケット・パドル・かじは水槽につけ、海水を洗い流す。
- ・ 洗い終わったライフジャケットは、艇庫の物干し場のハンガーにつるして乾かす。
- ・ パドル・かじは水洗いをし、ローボート内に戻す。
- ・ ローボートは流水で海水を洗い流し、船尾の水抜きから水を抜く。
- ・ 船台車も流水で海水を洗い流す。特にタイヤの軸受け部分は入念に洗う。
- ・ 洗い終えたローボートは、艇庫内に戻す。
- ・ 監視・救助艇は、監視員・救助員がエンジン・船体・船台車の洗浄を行う。

9. 安全監視体制

- (1) 総合監視 ——— センター長 1 名（または副センター長）
- (2) 海岸監視 ——— センター職員 1 名
- └——— 団体の指導者（引率所） 1 艇につき 1 名
- (3) 海上監視 ——— 監視員 2 名（センター側で用意します）

10. 緊急連絡体制

